

# 瀬戸内・海の路ネットワーク推進協議会

## 平成27年度担当者会の開催報告

平成27年11月12日（木）～13日（金）の2日間、香川県東かがわ市にて、瀬戸内・海の路ネットワーク推進協議会 担当者会を開催しました。当日は約100名が参加し、今年度の活動報告や来年度の総会提案事項に向けた活動方針等について議論が行われました。

また、13日に行われました現地視察では、ハマチ養殖体験学習「マーレリッコ」、江戸時代の商家建築「讃州井筒屋敷」の視察を行いました。



担当者会の様子

### ●開会

担当者会の開会にあたり、当協議会の幹事長である、高橋 正浩 広島市都市整備局みなと振興課長より、「本年5月22日に広島県福山市において開催された総会及び第9回瀬戸内海首長サミットでは、22名の首長様に参加いただき、『クルーズ振興のための連携促進に向けて』をテーマに、地方創生にとって、観光が切り札的存在となっているという認識のもと、瀬戸内の観光にとって欠かせないクルーズの振興について建設的なご議論をいただき、非常に有意義なものとなった。本日の4つの実行委員会（分科会）においても率直な意見を出していただくことによって、より中身の濃い議論が出来るものと期待している。」との開会挨拶をいただきました。



高橋 正浩  
広島市都市整備局みなと振興課長



藤井 秀城 東かがわ市長

次に、開催地を代表して、藤井 秀城 東かがわ市長より、「東かがわ市は瀬戸内海の播磨灘に面しており、国の天然記念物に指定されている絹島やランプロファイヤー、産業においては国内90パーセントを占める手袋の産地、ハマチの養殖で初めて成功した地であり、多くの方に親しまれている。今後は自然環境をさらに活かした取り組みを瀬戸内海に面した市町と連携を図っていきたい。協議会皆様方のご協力を頂いて実現させていくとともに、瀬戸内海の素晴らしい財産が世界中に光る地域となるよう期待している。」との歓迎の挨拶をいただきました。



由木 誠 港湾物流企画室長

続いて、事務局を代表して中国地方整備局港湾空港部 由木 誠 港湾物流企画室長より、「平成27年度の主な活動方針としては、○環境美化活動として、リフレッシュ瀬戸内や海の健康診断調査の実施、○海ネット協定の参加拡大やその実効性を担保するための情報伝達訓練等を実施、○海ネットサポーターとの連携した活動の推進、○瀬戸内地域における地域振興のための取り組みが積極的に展開されるような支援制度等の推進、○Webサイト「海的路」を通じた情報発信について、Webサイトのアクセス解析によるコンテンツのさらなる充実に向けた検討など、会員の皆様方にはいろいろな具体的

的取り組みにご尽力いただいている。次年度の具体的な取り組みについては、担当者の方々がこの後、開催される各実行委員会において、事務局からの具体的な提案に対し、より実効性の高い取組となるよう意見交換をして頂き、更なる海ネットの発展あるいは瀬戸内海全体の更なる魅力の発信、ネットワークの強化につながるものと期待している。」との挨拶を行いました。

### ●平成27年度事業報告、分科会（実行委員会）及び全体会

平成27年度の事業報告として、これまでの会員活動への支援の申請状況と実施済み事業の報告を行い、支援事業である「瀬戸内海活性化活動支援」、「瀬戸内海クルーズ推進活動支援」、「瀬戸内・海的路利用振興事業」、「海ネットサポーター提案事業」、「防災対策推進活動支援」について、提案募集を行っているので会員の皆様の積極的な活用をお願いし、来年度の総会は大分県中津市にて開催し、担当者会については広島県呉市にて開催するので皆様の参加をお願いしたい、との説明が事務局よりありました。

イベントプランコンテスト 実施報告の様子

続いて、昨年度の「海ネットイベントプランコンテスト」の受賞者である防府市、岬町、兵庫県の担当者よりイベント実施報告が行われました。(防府市さん欠席のため代理で事務局より報告を行いました。)



岬町さん



兵庫県さん

また、今年度の「海ネットイベントプランコンテスト」の第2次審査が実施され、松山市、福山市、湯浅町の3案について、各会員より概要説明を実施し投票を行いました。最優秀賞に輝いたのが松山市「さあ釣りを始めよう！ファミリー教室 in 中島」、優秀賞は湯浅町「紀州湯浅のギョギョっとお魚まつり」、奨励賞は福山市「ふくやま港まつり2016」がそれぞれ受賞しました。受賞の挨拶として、松山市より「この一歩が、港湾施設や船舶といったものの利用促進につながるように踏み出せたらと思う。」と本企画への意気込みを語っていただきました。

イベントプランコンテスト プレゼンの様子



最優秀賞 松山市さん



優秀賞 湯浅町さん



奨励賞 福山市さん

引き続き、魅力検討委員会、環境事業委員会、情報発信委員会、防災委員会の4つの実行委員会に分かれての議論が行われました。

第2部の全体会では、各実行委員会での議論の内容報告、及び平成28年度の活動内容についての方角性が提示されました。瀬戸内海地域の振興・発展、協議会活動を推進していく上でも、各種支援事業について積極的な申請をお願いしたい、との説明が事務局よりありました。

実行委員会においても担当者から活発な意見や質問がなされ、大変有意義な担当者会となりました。

なお、魅力検討委員会、環境事業委員会、情報発信委員会、防災委員会での各議論の内容は以下のとおりです。



## ●分科会

### ■魅力検討委員会

魅力検討委員会では、「海ネットイベントプランコンテスト」の開票作業を行った後、平成27年度の活動状況と平成28年度の活動方針について話し合われました。

平成27年度の活動報告として、次のとおり事務局より説明がありました。

「海ネットイベントプランコンテスト」では、6月26日～10月14日にかけて、各会員にイベント企画の募集を行い、結果として全体で3件の応募が集まり、これらの応募企画について本日の担当者会にて行われた審査により受賞企画が決定しました。

「瀬戸内・海の路利用振興事業」と「海ネットサポーター提案事業」は、今年度も継続して募集を行っているところですが、「海ネットサポーター提案事業」の1件の申請にとどまっています。

これらの活動内容に関連して、「海ネットイベントプランコンテスト」の継続実施、「瀬戸内・海の路利用振興事業」及び「海ネットサポーター提案事業」の活用促進について意見交換を行い、寄せられた意見をもとに来年度以降の活動に繋げていくことを確認しました。

また、「海ネットイベントプランコンテスト」受賞者の栄誉を讃えるとともに、イベントのPRを図るため、総会の場における授賞式を行うことについて提案することとしました。

最後に、平成28年度の活動方針として、「海ネットイベントプランコンテスト」で選ばれた事業を積極的に支援するとともに、「瀬戸内・海の路利用振興事業」、「海ネットサポーター提案事業」により、会員間の連携による防災ネットワーク機能の強化を視野に入れた瀬戸内・海の路の利用振興を推進することについて、了承されました。



魅力検討委員会の様子



## ■環境事業委員会

これまで環境事業委員会は、「リフレッシュ瀬戸内」と「海の健康診断調査」を、環境事業委員会の骨格事業として継続して実施しており、その目的は、多くの人に参加できる海岸清掃活動を通じ、瀬戸内・海の路ネットワーク推進協議会の取り組みの理解を深めることが目的であり、実質的な海岸清掃活動効果もさることながら、参加人数の維持拡大への働きかけは必須であることが確認され、来年度以降も引き続き開催することです承されました。



環境事業委員会の様子

「リフレッシュ瀬戸内」の参加人数は2年連続で減少しておりましたが、平成27年度は各会員団体の取り組みの結果、参加者数増加に転じました。しかしながら、水準としては往時（H9～16d）とは大きな隔たりがあり、これは、地域コミュニティの構成の変化や人々の関心の変化等により、清掃奉仕活動というだけでは人を集めにくくなっている現状があるものと考えられます。このため、本年の担当者会では、昨年の議論で出された意見のうち、次の2点にリフレッシュ瀬戸内が今後目指す方向性のヒントがあると考え、これらの深掘りと、リフレッシュ瀬戸内25年を迎える平成29年度を目途に実施ベースに移すための検討を行いました。

### ① 海ネットのロゴなどを使用した統一的なプロモーションの実施

統一的なプロモーションについては、ほとんどの出席者から効果がある旨の発言があった一方、統一カラーを使用してのプロモーションについて、過去配布タオルのカラー化を検討した出席者から、コストについても経験を踏まえた指摘をいただくなど、具体化に向けた意見が交わされました。また、開催地「東かがわ市」が手袋の町であることにちなみ、ロゴ入り軍手の使用などの意見も出されました。

### ② 「単なる清掃」ではなく「笑顔を掴むための」取り組みの具体的方策の実施レベル検討

- ・リフレッシュ瀬戸内自体を交流の場を提供するコミュニケーション・ツールとして活用できる仕掛けを行う。
  - ・「楽しさ」「ワクワク感」が伝わるネーミングなど打ち出しの事例紹介（「未来を変えるゴミ袋プロジェクト」「〇〇ピクニック」）
  - ・コミュニティ強化のツールとして活用（「海岸の里親」としての意識付け）
  - ・子どもの継続参加の動機付けになる記念品の配布
  - ・まず海岸を使うことで、海岸美化への意識付けにつなげる。（ビーチサッカー等）
- などの意見が出されました。

その他、活動の情報発信についてFacebookの活用や、ハロウィン時期での仮装ゴミ拾いなど実施時期についての提案など、今後の「リフレッシュ瀬戸内」の取り組みについて参考となる意見が多数ありました。

これらの議論の成果について、平成29年に向けて1年かけて取り組みを深めて行くとともに、先行して取り込み可能なものについては、環境事業委員会所属会員と相談の上、来年度の実施方針に反映し、幹事会・総会へお諮りいたします。

## ■情報発信委員会

情報発信委員会では、『海ネット HP 閲覧者の増加に向けた取り組み』として、アクセス解析結果から推測できる『海ネット HP の現状と問題点』を報告し、HP または HP 以外の媒体を使い、より多くの方に情報発信を行うことができ、海ネットに対して興味をもってもらえる方法を検討しました。

○主な現状の報告として、

1. 閲覧者数自体は減っているが、1人あたりの閲覧ページ数は増えていること。
2. スマートフォンやタブレットを利用した閲覧者の割合が増えていること。
3. 海外からのアクセスが大幅に増えたこと。

○問題点として、

1. HP の PR 不足による閲覧者数の減少。
2. 海外からのアクセスや外国人旅行客が増加しているなかで、多言語化の必要性は感じているが費用が多額であるため、単年度の経費では行えないこと。

上記問題点に対して、今年度は『限られた予算の範囲で効果的に情報発信を行うには？』をテーマとして、事務局より対策案を提案し議論を行いました。

事務局の対策案として、HP を PR するための『ステッカー』を作成し、観光客や旅行客が訪れる観光スポットや施設に貼ることにより、『まず HP の訪問者を増加させる。』という案を提案し、出席された各委員より活発な議論・提案が行われました。

28 年度の活動方針は、アクセス解析によりステッカーの効果を検証し、ステッカーの効果が有効であれば、次のステップとして更なる情報発信方法を検討していくということでした。



情報発信委員会の様子

## ■防災委員会

防災委員会では、平成 27 年度の取り組み及び平成 28 年度の活動方針について次のとおり議論が行われました。

平成 27 年度の取り組みとして、①災害時に迅速な応援に資するための共有可能な資機材・物資リスト及び担当者名簿の更新。②平成 27 年 6 月 11 日に 60 会員の参加により実施した情報伝達訓練についての報告及び訓練後に実施した意見照会結果を踏

まえた対応案。③海ネット会員が連携し実施する海の路を通じた防災訓練を支援する「防災対策推進活動支援事業」。以上 3 項目について事務局より報告があり、②については、対応案について次回以降の訓練に反映させることを確認しました。③については、本年度に制度創設後初の申請があり支援を実施したことの報告があり、今年度の残り期間においても「防災対策推進活動支援事業」の活用について引き続き呼びかけを行うことを確認しました。

平成 28 年度の活動方針として、資機材・物資リスト及び担当者名簿の更新や、より多くの会員が参加可能となるよう訓練内容等の改善を行い防災訓練を引き続き実施することで、海ネット協定の実効性の確保を図ることを確認しました。



防災委員会の様子

また、委員会に出席された各会員より、各所属所において実施している防災訓練についてご報告をいただき、情報の共有を図るとともに「防災対策推進活動支援事業」支援内容の検討を含め、更なる活用に向け、引き続き全ての海ネット協定締結会員に対し働きかけを行うことについて了承されました。

## ●現地視察

翌日は、ハマチ養殖体験学習「マーレリッコ」、江戸時代の商家建築「讃州井筒屋敷」を視察しました。

ハマチ養殖体験学習「マーレリッコ」では、日本で初めてハマチの養殖に成功した歴史について学び、またハマチの餌やりでは、餌に群がるハマチの迫力に大変賑わいました。

室町時代より風待ちの港町として栄えてきた引田では、醤油・酒醸造を営んできた「讃州井筒屋敷」や、「手袋ギャラリー」などを見学しました。



ハマチ養殖体験学習「マーレリッコ」



江戸時代の商家建築「讃州井筒屋敷」



引田の古い町並み「引田郵便局」



「東かがわ手袋ギャラリー」のアート